童子女（おとめ）の松原

神栖市

昔、常陸国（茨城県）の鹿島地方に那賀寒田郎子（なかのさむたのいらつこ）という若者と、海上安是嬢子（うみかみのあぜのいらつめ）という娘がいました。

寒田郎子（さむたのいらつこ）はたくましく、仕事もよくできる若者で、安是（あぜの）嬢子（いらつめ）は気だても良い美しい娘で、その評判は近隣の村々まで広がっていました。

いつしかふたりの耳にも互いのうわさが届くようになり、一度会ってみたい、一度話してみたいと思いが強くなっていきました。

そうしているうちに月日は流れ、ある年の秋、村の若者が集まり歌ったり踊ったりして楽しむ歌垣（かがい）でふたりは出会うことができました。

郎子（いらつこ）が歌を詠み、嬢子（いらつめ）もそれに応え、お互いを確かめると、以前から会いたいと思っていたことも重なり、恋しい気持ちはさらに強いものになりました。

歌を詠むだけではもの足りないと、ふたりは人目をさけ、海辺の松の木陰で時が過ぎるのも忘れて語り合いました。突然、朝を告げる鶏の鳴き声で気づくと、あたりはもうしらじらと明るくなりかけています。気づかないうちに夜が明けてしまいました。歌垣は、夜が明けるまでに終わらなければならなかったのです。

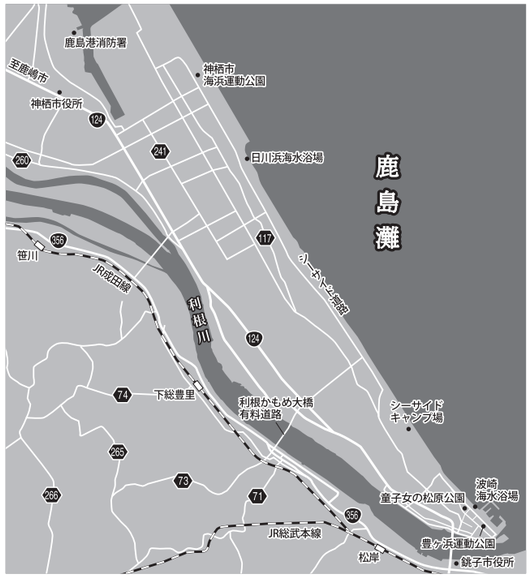
ふたりはなすすべを知らず、人に見られることを恥じて手を取り合うと、そのまま二本の松の木になってしまいました。

これを知った村人はふたりを不憫に思い、郎子の松を奈美松（なみまつ）、嬢子の松を古津松（こつまつ）と名づけ大切に育てました。

この松原は、それからずっと、「童子女の松原」と呼ばれているということです。

〈参考文献〉茨城の伝説（茨城民俗学会編）

※掲載事項には諸説あります。



「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく
ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社
本社／〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215（大代） https://www.ibaraki-isuzu.co.jp